

新潟市水族館指定管理者 平成28年度事業計画書

※ 事業やショープログラム等については、名称・内容・実施時期等は案であり、変更する場合があります。

1 施設の管理・運営に関する業務

(1) 基本姿勢

「新潟市水族館の管理に関する基本協定書」「新潟市水族館の管理に関する年度協定書」に従い、「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」及び、その他「新潟市水族館の管理運営業務を遂行する上で関連する法規」を遵守し、新潟市の示す「新潟市水族館の基本的使命」の具現化に向けて業務を推進します。

業務に必要な専門的知識や技能・資格等を備えた職員を配置し、平成2年の開館当初から培ってきた豊富な知識と経験を生かし、「安全・安心の確保」「安定した施設運営」を心掛け、効果的かつ効率的な管理運営を行っていきます。多くのお客様に来ていただけるような魅力ある事業を展開し、サービスを徹底していきます。

(2) 入館者・入館料収入

「新潟市水族館条例」「新潟市水族館条例施行規則」に則り、適正に入館料徴収事務を行っていきます。平成28年度の入館者数及び入館料収入の目標値は下記のとおりです。

| | 目標値 | 目標値の設定根拠 |
|-------|--------------|-------------------|
| 入館者数 | 518,000人 以上 | 新潟市28年度当初予算（端数整理） |
| 入館料収入 | 495,750千円 以上 | |

工夫・改良をしながら水族館の魅力を最大限に発揮し、充実したサービスを提供し、目標値に達するよう努めます。常におもてなしの心を持ち、「来てよかった、また来たい」と感じてもらえるようなサービス提供を心掛け、リピーターの確保に努めていきます。

(3) 臨時開館・閉館及び開館時間の変更

条例上、水族館の休館日は12月29日から翌年1月3日、開館時間は午前9時から午後5時までとなっていますが、多客期の市民サービス及び法定点検等のため、新潟市と協議のうえ、以下の期間について臨時開館・休館、開館時間延長を実施したいと考えています。

- ① 臨時開館（年始）… 平成29年1月2日(月)・3日(火)
- ② 臨時閉館（電気設備法定点検等）… 平成29年3月2日(木)・3日(金)
- ③ 開館時間変更
 - a. GW… 平成28年5月3日(祝・火)・4日(祝・水)
開館時間30分繰上（8:30～17:00）
 - b. 海の日3連休…平成28年7月16日(土)・17日(日)・18日(祝・月)
開館時間30分繰上（8:30～17:00）
 - c. 夏休み…平成28年7月25日(月)～8月31日(水)の土曜・日曜日（下記お盆期間を除く）閉館時間1時間繰下（9:00～18:00）
 - d. お盆… 平成28年8月6日(土)～17日(水)
開館時間30分繰上及び閉館時間1時間繰下（8:30～18:00）

（ただし、b～dは予定。4月～7月上旬の入館状況による。）

2 事業の実施に関する業務

(1) 水族館展示基礎部門（常設展示）

500 種、20,000 点の飼育規模を維持し、科学的配慮のもとに 10 の展示ゾーンでわかりやすく展示します。展示生物の充実と正確かつタイムリーな情報提供に努め、リピーター、特に年間パスポート利用者に対しても常に新鮮味のある、魅力溢れる常設展示を行います。

① 潮風の風景

サンゴ礁や干潟などさまざまな海岸線を再現し、そこに生息する生物等を展示します。

② 日本海一大陸と列島に囲まれた海一

日本海に生息する生物等を浅瀬や深場等の環境ごとに分かりやすく展示します。「日本海大水槽解説」では、水生生物や海洋環境に関する知識の普及を目的に、日本海大水槽前で飼育員による解説を実施します。展示生物の紹介、水族館のしくみなど多角的な解説をします。

③ 暖流の旅ー黒潮と対馬海流ー

日本近海の対馬海流や黒潮域で見られる生物等の展示や、育成室で育成の様子を開示します。

④ 信濃川ー多様な陸水環境と魚類ー

信濃川流域の多様な環境と水生生物を、擬岩などの造形物や写真、解説パネルなどを用い展示します。

⑤ 体験・学習

アクアラボで生物標本の展示等を行い、「アクアラボ体験」では水生生物に対する知識と理解を深める事を目的に、参加者の年齢や季節感を考慮したテーマで顕微鏡・カメラ・モニターを用いて、観察と解説を行ないます。また、磯の生物に触れることのできる水槽で「磯のいきもの解説」を行い、水槽内の生物を近くで観察することによって、生物の扱い方や、生息環境への理解を深めていただきます。他に開架式ライブラリーの充実に努めます。

⑥ 水辺の小動物

アメリカビーバー、ユーラシアカワウソ、バイカルアザラシ、ラッコといった半水生の水辺に生息する哺乳類を展示します。

⑦ ドルフィンスタジアム

イルカの体のつくり、学習運動能力をショー形式で紹介します。ショーを通じてイルカの形態や生態・能力、ヒトとの関わり、海洋環境保全メッセージなどをわかりやすく伝えます。

⑧ マリンサファリーひれあしの入江ー

トド、カリフォルニアアシカ等ひれあし類を展示します。「トドの給餌解説」では他施設ではあまり行われていない、トドの直接給餌によるハンドリングを用いた給餌解説を行ないます。普段はプールの中を泳いでいる体重約1トンのトドを間近で見えていただき、その大きさを実感してもらうことで野生生物に対する畏敬の念や、環境意識の醸成を図ります。また、「ひれあし類解説」では、トレーナーが一般観覧エリアに誘導し、お客様の目の前で体のつくりや生態などを解説します。

⑨ ペンギン海岸

フンボルトペンギンなど海棲鳥類を展示します。「ペンギン解説」ではフンボルトペンギンについて解説し、夏期はペンギン海岸プールで餌を与えながら泳ぎ方や餌の捕り方を、秋～春期はペンギン散歩道で陸上での生活の様子等を主に説明します。また、急速に個体数が減少している生息地の現状や、種の保全という立場から長年繁殖に力を入れてきた館の取り組みも解説します。

⑩ にいがたフィールド

新潟市近郊で見られる砂丘湖、田んぼなどを再現し、そこで見られる生物や季節による変化を紹介するとともに、地域の希少生物などの繁殖を目指します。

(2) 啓発・普及部門（特別展示・特別プログラム等）

① 特別展示

随時、生体展示に加え、パネルや動画なども活用しながら、「シロウオ展」「新潟県の外来魚展」「アカムツの生態」「魚の分類」など、テーマに沿って詳しい解説を行います。

② いきもの教室

水生生物に関する知識の普及と生き物への理解を深めることを目的とした体験型教室です。主たる参加者を子供とその保護者と想定し、季節感も考慮したテーマ設定で、毎月1回、原則日曜日に実施します（別紙1）。事前申込により、各回20名程度を募集します。

③ にいがたフィールドの「田んぼ」を利用したプログラム

5月下旬から6月初旬に事前募集型の「田植え」イベントを実施します。また、稲の生育状況を見ながら、田植え参加者に声かけをして稲刈りや稲架がけ、脱穀などの田んぼ作業に参加していただくことで、新潟の陸水環境について考えるきっかけを提供いたします。

④ ナイトツアー

毎年度実施している体験スクールの中でも1番の人気である「ナイトツアー」を28年度も実施します。

⑤ 大人向け水族館講座

高校生以上を対象にした事前募集型プログラムを秋から冬にかけて4回程度実施します。

⑥ 幼児・親子向けプログラム

秋期から冬期にかけて来館者比率が増加する幼児とその母親を対象とした館内プログラムを4回程度実施します。

⑦ フォトコンテスト

H26年度から実施している「フォトコンテスト」を28年度も実施します。7月から10月初旬を応募期間とし、12月から1月に受賞作品の展示会を開催します。また、応募期間中に2回程度「写真教室」を開催します。

⑧ 海辺の自然観察会

7月下旬に佐渡市にある新潟大学理学部附属臨海実験所を利用し、事前募集の小中学生等を対象とした「海辺の自然観察会」を実施します。一泊二日の日程とし、宿泊は同実験所を利用、磯採集や採集生物を使った観察や実験などをおこないます。

⑨ その他

夏期から初秋のハイシーズンに事前募集型のスクールプログラムの実施を検討します。

11月頃から3月初旬にかけての閑散期だからこそ実施できる企画として、館内での特別ガイドツアーを実施します。27年度に実施した「ハンズ・オンガイド」「育成室ガイド」などをベースにブラッシュアップしたガイドを企画実施します。

(3) 学習・交流部門

① その他総合学習受け入れ（文部科学省の提唱に基づく学習支援活動）

小・中・高等学校等からの要請により、生徒、児童に対して、質疑応答を実施し、水族館や水生生物、環境への理解を深めます。

② 実習生受け入れ

大学からの要請により、学生に対して生物を対象とする博物館としての特性を指導する博物館実習（単位制）を行います。また、大学や専門学校からの要請により、インターンシップや職業実習を行います。

③ 講師派遣

新潟大学理学部附属臨海実験所主催の臨海実習に講師を派遣し、県内の高校生および理科教育関係者に対して、海洋生物の採集や観察、分類に関する指導を行います。また、市内の学校等への出張授業や部活動への支援を行います。

④ 教員向けプログラム開発および提供

主に新潟市の小中学校の教員向けに生物飼育の方法や授業での水族館利用などをテーマにしたプログラムを開発、実施を検討する。

⑤ 生涯学習のための情報提供

館内での質問、市民からの電話や手紙・メール等による問い合わせに対し、適切で素早い情報提供を行います。他の生涯学習施設との交流・協力を積極的に行うことで、利用者の幅広いニーズに対応できる体制を作ります。他施設との共催による自然教育・環境教育活動等を行います。

(4) 調査・研究部門

① 飼育生物に関する調査研究

魚類や無脊椎動物の繁殖・育成に取り組むことで、大学等の研究機関と協力し、生物学等の知見の蓄積に貢献するとともに、研究結果等を展示に反映させます。

② 野生水族に関する調査研究 -地域の自然史に関する知見の蓄積と公開

漂着生物の情報を収集し、生態学的・生物学的解明に役立てます。現場で計測と状態の確認、標本採取などを行います。得られた情報及び試料は、展示に反映させます。トゲウオ類、メダカ等地域に分布する水族の生物学的研究を行い、環境教育等に役立てます。

③ 希少水族に関する調査研究 - 繁殖、種保存活動、希少水族の生息域調査、生息域外保存に関する知見の蓄積と公開

日動水協の繁殖計画に則し、フンボルトペンギンの生息域外保存（飼育下の繁殖等）、国内で急速に減少している飼育下のラッコの繁殖に取り組みます。シナイモツゴ、ホトケドジョウ、ハクバサンショウウオの生息域調査を行い、これらの繁殖技術の確立、向上に取り組みます。

3 市民ボランティア

市民ボランティアの活動目的を大きく「水族館運営のパートナーとして」「来館者と水族館をつなぐ役割として」「生涯学習の場として」の3つとし、活動の運営を行います。平成27年度末現在87名が登録していますが、いきもの教室の補助、館内案内、磯の体験水槽解説、職員や来館者との交流等の活動を通して、前記の3つがバランス良く達成できるように努めます。特に、リニューアルで新規に設置された「にいがたフィールド」「体験・学習ゾーン」「キッズコーナー」での活動を推進します。

H28年度は4月中旬頃から5月にかけて新規募集、6月から7月にかけて研修を行い、夏休みをめぐりに正式に活動開始するスケジュールを考えています。

また、ボランティアの自主性をより活性化するために、研修プログラムを充実させていきます。水族館、来館者、ボランティアの3者が満足できる活動を推進することで、持続的なボランティア活動を目指します。

4 他館等との協力

平成19年度に友好館提携を結んだ「アクアマリンふくしま」をはじめ、他の水族館・動物園、研究機関等と協力し、生物交換、飼育生物の繁殖や育成に関する情報交換・技術交流などを活発に行っています。

行政や自然保護団体等と協力し、種の保存や自然保護の啓発に努めていきます。

5 広報・広告宣伝について

各メディアの特性を把握しながら最適な広報・広告宣伝ができるように努めます。

「広告宣伝」「ホームページ（当館）」「SNS」「プレスリリース」を4つの柱として行います。

ホームページは、情報が不足していた「館内マップ」ページを修正し、展示生物情報などを付加します。また、飼育生物データベースを構築し公開いたします。

H27年秋期より運用を開始したSNS（LINE@、Facebook）での情報発信を積極的に展開します。それぞれの特徴を考慮した情報発信方法を研究し、より効果的になるようにいたします。

テレビや新聞のニュースとして取り上げてもらえるようにプレスリリースを含むメディアへの情報提供を頻繁に行うことも重要課題と考えています。インターネットメディアでは、新潟市の各部署が展開しているSNSページや観光コンベンションセンター運営の観光情報サイト、県内向け情報提供サイトなどへの積極的な情報提供を行い、草の根の広報を進めていきたいと考えています。

広告宣伝は、これまでの実績をふまえた上で、しかし前例にとらわれすぎることの無いように、効果的、効果的な方法および量になるように実施します。実施利用するメディアは、「テレビCM（15秒）」「テレビ番組内コーナー（TeNY わくわくマリニピア）」「ラジオCM（20秒、5分コーナー）」「旅行雑誌広告」「タウン情報誌・フリーペーパー広告」「新聞広告」「Web・ソーシャルメディア広告」「新聞折込チラシ」を想定しています。これらのメディアを限られた予算の中でより効果的にプロ

モーションできるように、メディア配分、実施時期、地域および客層について計画します。

ターゲットとする地域は、新潟県内を最重要地域とし、県外は主に山形県と福島県に展開します。新潟県内は年間を通してテレビCMとラジオCMを実施します。県外については、山形県・福島県では4月から9月にテレビCMを実施し、夏期にはラジオCMを追加します。

平成18年度から行っている新聞折り込みチラシについては、H27年度はGW前に山形・福島・群馬・長野・埼玉・宮城、新潟の7県で展開しましたが、H28年度は夏休み前に山形県・福島・新潟の各県を中心に展開いたします。

6 アンケートの活用

館内アンケート、各教室参加者アンケート等を実施することで、来館者の声の収集に努め、その声を検証し、事業実施や事業の改善に役立てていきます。

「館内アンケート」は、満足度を数値化できるような設問を盛り込むことで、各種サービス別に来館者の客観的な評価やニーズの把握に努めます。また、「各教室参加者」等の水族館ファン層に対する「質的」なアンケート等を実施し、質的データ分析などよりきめ細やかなニーズを把握することで、展示の充実および来館者サービスの向上に努めます。